



ヒール宮井の

National Farm Machine Show 見聞録2009 [前編]

取材・文・撮影／宮井能雅



3



2



1



6



5



4

1 空路は、千歳ーインチャン（韓国）ーL Aでビジネスクラス使用。今月号のヒール宮井でも書いたが180度のフルフラットシート。もうエコノミーは乗れません。乗り継ぎの時間にインチャンでフットマッサージを受ける。¥4,500/60分。いかがわしいサービスを受けているわけではない 2 米国到着初日は暇だったので、知り合いの美容師と美人を拝見するため、サザンカリフォルニア美容展示会に参加した。昨年よりも明らかに参加者が少ないそ

うだ。日本からも多くの女性が参加していた 3 京都大学卒業の日本人、essieと言う化粧品ブランドのL A支店長さん 4 なんかもこんな感じもそそられますね。この子もカメラを向けたらしっかりとポーズを作ってくれた。サービス精神抜群だ 5 美容に関する展示会ながら、農産物を発見。麦を発芽させデコレーションに使っていた。おしゃれだ 6 UTSUMIも日本のブランド（ハサミ）。日本人が手先の器用なところを見せ、小物を作っていた。

機械の進歩よりも バイオ技術の進歩が目立った

2年ぶりに米国・ケンタッキー州ルイビルでのファームショーに行ってきた。以前にもご案内したことであるが、全米で一番大きな室内の展示会になる。今年の米国は平年よりも寒く、訪れた前の週に吹雪があり、その結果、多くの高圧電線に破損事故があり、5日間ほど電気なしの生活を負わされた地域もあったそうだが、ファームショーの間は朝の0℃から日中は10℃になる穏やかな天気であった。

10数年ほど前からこのファームショーに来ていたが、最近ではポツタクリ料金のホテルが多い。最低でも2倍、会場近くでは3倍の料金がまかり通っている。

これはヨーロッパのファームショーでも同じような結果になる。米国の田舎町までヨーロッパの真似をしないでいただきたいものだ。

会場で展示された農機具は明らかに2年前に来た時よりも大型化されてきている。意外かもしれないが、作業機自体の大きさはヨーロッパ製の方が大きいものが多くあるが、現実に販売、使用される機械の普及は圧倒的に米国が進んでいる。

2008年7月から穀物価格は急



8

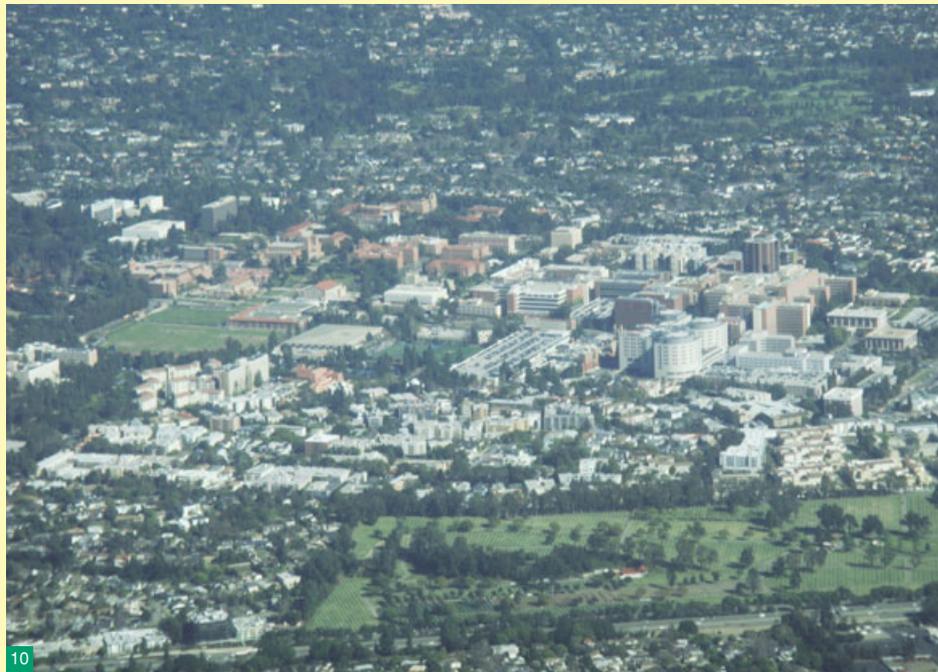


7

7 Mori-nu (森永乳業)の豆腐。凍らせてはいけない、パッケージごと電子レンジには入れてはいけない、開封後2日で消費しなさいの注意書きがある。8ハリウッドデビューを目論む男。9何十年ぶりにラスベガスでは降雪があった。その結果このような事故も10かの有名なUCLA。出来が良ければここに入学する予定だった。大学のそばは住宅街。豊かだ。11LAの西に車で1時間のキャマリコ飛行場のそば。メキシコ人が野菜の収穫作業をしていた。アミーゴたちのおかげでアメリカ農業が成り立っているのだ。12LAX南、トーレンスにあるTOYOTA USA本社。13ラスベガス最高！



9



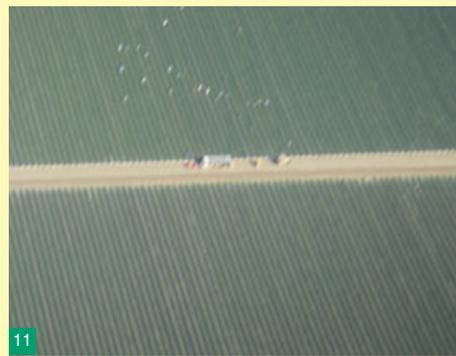
10



13



12



11

落しているが、反米主義者からいた
だく「ザマーミろ」というのは大間
違いである。
2年前に比べても今の穀物価格は
30%高い水準である事実を無視して
はいけない。米国においても肥料は
日本並みに2倍、土地の価格や使用
料金も軒並み20%以上は高騰してい
る。
その結果、規模拡大した生産者で
も利益の相殺はあるが、それなりの
利益配分があるのは当たり前ようだ。
しかも、その農業の現場で減少
し続ける生産者の農地を誰かが耕さ
なければならぬので、農機具が大
型化するのには需要にあつた対応とい
える。知り合いのジョンディアのデ
イラーが販売する、つまり生産者
が購入する農機具の基準は「一番デ
カイやつをくれ！」だそうだ。確か
にどこかの国のチンケな農業とは比
較にならない。
いろいろな機械が並ぶ中で、実は
バイオ技術の大進歩があつた。
遺伝子組み換え作物の特定除草剤
耐性は大きく分けるとモンサントの
ラウンドアップ(RR)耐性とライ
バル会社のBASIFのグリホシネー
ト(Liberty Link, Ignite)耐性があ
るが、このLiberty Linkには大豆の
商品がなかった。今回80から90の契
約された種子会社から、本年は50程



16



15



14



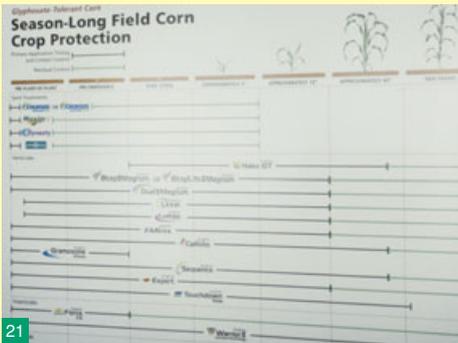
19



17



18



21



20

14 私も使用しているアウトバックのGPS。北海道では芽室の黒田スプレーヤーが販売・保守管理している18コンバインのリールである。写真ではわかりづらいが、オーガーに入る所で角度が変わりスムーズに食い込むようにしてある16私を使うDMCの貯留ビン内の攪拌装置。手前の搬送用システムに将来性はあるのか？ 17モンサントの新しいラウンドアップパワーマックス。販売好調のため、カリフォルニアに200億円の新工場建設決定！ 18グリホサート（ラウンドアップ）の耐性雑草の分布図。Horseweedはスギナのことと思う19ヤンマー、MSKでも取り扱うようになったグレートプレーンのドリル。ただし、極大粒の大豆は回転カップがジョンディアよりも小さいので注意が必要になる20 21シンジェンタの農薬を図のように使えばコーンの除草はばっちり。

度の品種が出てくるそうだと。

北海道においてもツクサ、スギナはラウンドアップよりもグリホサート（日本名バスタ）の方がパンチ力に勝ることを地域の生産者は知っている。

このグリホサート耐性大豆の登場によってこのような栽培が考えられる。

それは、以前にはモンサントもすでに認めていなかったが、やはり存在するラウンドアップ耐性の雑草の存在だ。RR大豆、RRコーンを3回、つまり6年間、同じラウンドアップを同じ圃場で使用し続けると、抵抗性の雑草が出やすい環境になるらしい。

しかし一度覚えた簡単な雑草処理方法の「蜜の味」を忘れることはできないので、ヤンキー生産者はちょっと頭を使うことになる。大豆はRR、コーンはLiberty Linkの別々の除草剤耐性の品種を使うと、1年おきに違う除草剤を使うので、その両方に耐性の雑草は常識的に考えて、出現しないと思われる。

たぶん本年からは大豆はLiberty Link、Ignite、コーンはRRの組み合わせが可能になり、より雑草の出現時期にあった農薬散布ができることになる。

正直言って、うらやましい限りで



24



23



22



27



26



25



30



29



28

22あまりにもレトロの雰囲気だったので冗談だと思っていたら、本気で販売する様だ。貯留ビンが5年保証とあるが、50年経っても壊れる物ではない。ジョンドリアのトラクターはすべての世代に人気がある。BROCKのジョブサンと言うことか。この手の機械の出入りは前方になるので結構事故が発生しやすいと聞く。この円筒形の中身はオーガーではなく、ベルトコンベアになっていて、能力はオーガーよりも50%高いと言っていた。『オー、ベイビー、

こんな買ってやるぜ!』と高校生っぽいカップル。CATのコンバインである。最近の傾向としてプーリー、ベルトなどの可動部分が手の届かない位置に置かれている。ジョンドリアの播種機もエアータイプになってきた。コクボタの作業カー。こんなに可愛い子に人気なのに、なぜ日本で販売しないのだろうか?

National Farm Machinery Showとは?



米国ケンタッキー州にあるルイビルで毎年2月中旬(2009年は11~14日)に開催される農業機械展示会。シンジェンタがスポンサーとなったトラクター牽引ショーも人気。入場料は無料。なお、同イベントのホームページのURLは、<http://www.farmmachineryshow.org/>

ある。
日本国内の生産者の多くの本音がGMやむなしであっても、GMが推進されていない環境では絵空事になってしまう。そんなチキンハートな生産者に本音を言わせていた。う。
「おまえらバカか? 技術革新を無視した農業に未来はあると思うのか? もっと本音を言えば、品種開発しないで、何十年も古い品種を使うのが美德と勘違いしてないか?」
だが、こんな独り言を誰も聞いてくれないだろう。したがって、未来は申し訳ないが、「オレの物だ」とあらためて思った次第である。
(以下次号へつづく)